

令和元年度

第2回 宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議議事録

日時：令和元年12月24日（火）14：00～

場所：宇城市役所3階 大会議室

1 開会

2 議事

（1）第1期宇城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について（事前送付資料）

（2）第2期宇城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針について（事前送付資料）

（3）その他

3 閉会

【配布資料】

- ・まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年度版）（案）
及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」（案）
- ・令和元年度第2回宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議 次第・・・事前送付
- ・宇城市まち・ひと・しごと創生総合戦略成果指標（KPI）一覧・・・事前送付
- ・宇城市まち・ひと・しごと創生【人口ビジョン】【第2期総合戦略】策定方針（案）
・・・事前送付
- ・総合戦略改定事業新旧対象表

1 開会

委員欠席：岡本委員、由布委員、原田委員、森川委員

2 議事

(会長)

それでは、議事に入る。宇城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について、事務局からの説明をお願いします。

(事務局)

当日配布資料国のまち・ひと・しごと創生長期ビジョン(令和元年度版)(案)及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(案)について概要を説明

(事務局)

事前配布資料の宇城市まち・ひと・しごと創生総合戦略成果指標(KPI)一覧について、事務局より各事業の達成状況を説明

H27年に総合戦略を策定し、今年で5年目。

進捗状況について、平成30年度までの取組状況を元にし、直近の数値を一部修正。その進捗状況を元にして、達成状況を、○、×、不明で表記。

不明については、国の発表を待っている段階。発表があり次第効果検証を行う。

達成率について、事業数22、総KPI数47、達成数21、未達成数26、達成率44.7%となっている。

KPIの達成率をもとに、効果検証を行っているが、当初設定した目標があまりにも高すぎたという事業や、毎年効果検証ができないようなKPIが設定されたものも見受けられるので、それについては結果が出次第効果検証を行っている。

特に熊本地震後のH28、H29の途中までは創造的復旧・復興を優先的に進めたということもあり、具体的な施策について3年間取組が行われなかった事業もあるが、今年からはほぼすべての事業が動き出した。

特に成果が出ている事業は、番号5金融機関と連携した販路拡大・6次産業化支援で、デコポンを使った「うきよなビールの」開発・販売・販路拡大、最近第2弾としてレモンと白玉粉(日の出製粉)の「うきよなビール」が完成した。

JAでは、ショウガを使った6次産業化に取り組んでいる。(県の夢チャレ補助金を活用)

番号16、17、18の成果指標25歳～44歳の社会動態(順移動率)の改善

について、進捗管理状況が129人/年で目標値▲63人/年を大きく上回っているが、これは熊本地震により被災した人が、一度宇城市外へ転出したものの、住宅の再建により宇城市に戻ってきた一時的なものであると考える。

番号1, 7, 8, 19については、国の推進交付金を活用して現在も優先的に事業を進めている。

(会長)

ここで、委員の皆様の意見を伺いたい。

(委員)

番号10 市外在住者連携強化推進事業, 番号11 学生連携強化推進事業について、進捗状況が0なのはなぜか。

番号20 公共交通・買物支援の社会システムの抜本的対策の推進について、行政区数が増えているのに進捗状況の額が基準値を下回っているのはなぜか。

(事務局)

番号20については、H31年度に買い物支援車両が故障して支援できない期間があったので、それが影響していると考ええる。

番号10, 11については、担当課（まちづくり観光課・教育総務課）として把握している人数が0である。

しかし、フラワーフェスタ・成人式・人権フェスタ等に学生がボランティアとして参加してもらっている行事もあるので、次期戦略策定にあたっては、市全体として、イベント等に参加した学生の人数を再調査し、把握する必要があると考える。

(委員)

44.7%というKPI達成率をどのように評価しているのか、他市町村との比較も交えて説明願いたい。

(事務局)

策定時に高めのKPI設定をしたこと、適正なKPI設定であったのかということを観案すると、達成率については適正な数値になったのではないかと考えている。他市町村との比較については、ここでの回答を控える。

(会長)

KPIについて、達成率はそれほど重要ではなく、1つ1つの達成状況につい

て、なぜ達成できたのか、達成できなかったのか理由を把握することが重要。

他市町村との総合戦略比較は、事業内容や KPI の設定がそれぞれ違うので難しい。

策定時の KPI 設定が高すぎたということだが、KPI は多少高めに設定を行ったほうが良い。

(委員)

進捗状況についての表記が○、×、不明しかない。△などの評価も追加したほうがなお良いのではないか。

(会長)

△等の表記を追加するとともに、○、△、×それぞれの評価基準を設定するとよい。

(委員)

市内の周年行事に合わせた企画を計画し、宇城市に来てもらい、お金を使ってもらい流れをつくり、稼げる観光を目指していただきたい。

(委員)

番号 18 の魅力度ランキングの向上について、進捗状況は基準値より 2 つランクが上がっているが (13 位→11 位)、その要因は何か、ライバルの自治体はどこか、ランクを上げるためにどのような施策に取り組んでいくのか教えていただきたい。

(事務局)

12 位が荒尾市、13 位が宇土市となっている。基準値設定時は、特に宇城市の魅力発信事業として取り組んでいなかった。このランキングは、「宇城市」というワードや情報をキャッチした人が多いほどランキングが上がるような算出になっている。

昨年から、宇城市はプレスリリースとしてメディア関係や一般の方に積極的な情報発信を行うようになったので、宇城市というワードをキャッチした人が増え、認知度が上がったことによって、このランキングの順位が上がったものと考えられる。

県の補助金を活用し、魅力発信事業として、定住促進に向けた冊子やプロモーション動画をテレビや映画館、デジタルビジョン等で放映しているので、宇城市に関する情報をキャッチする人が増加していると感じる。

今後も県内外へ「UKINISUM」を活用した周知活動を行い魅力度ランキングの向上を図っていきたい。

(委員)

番号 9 の空き家バンクを利用した移住者数について、この数値は、空き家バンクを利用したものだけの数値か。なお、三角町の高齢化・過疎化が進んでおり、将来が不安である。宇城市の中の三角町としてさらに情報を発信し、若い人に来てもらえるようにしたい。

(事務局)

空き家バンク制度を利用した移住者数のみ記載している。

空き家バンクの登録に関して、登録したい人すべてを受け入れている状況だが、現状を精査し宇城市としての方向性を定め、それに対する効果検証可能な KPI の再設定を行いたいと考えている。事務局と事業担当課ですり合わせを行い、次期戦略では新たな KPI を設定する。

地名について、宇城市誕生から 17 年程経過したが、未だ知名度が低い状況である。宇城市ではなく、旧町単位の認知度のほうが高いことは把握している。宇城市を大々的に発信していくと同時に、旧町もあわせて発信していく必要があると考えている。

(委員)

番号 5 金融機関等と連携した販路拡大・6 次産業化支援について、新規市場開拓数とネット販売農家戸数の内訳を教えてほしい。

番号 14 宅地開発に伴う金融機関・住宅メーカー等との連携及び整備及び推進について、金融機関としてどのように関わって進めていったらよいか教えてほしい。

(事務局)

番号 5 の新規市場開拓数はアグリパークのシャインマスカットで、ネット販売農家戸数については、ふるさと納税の返礼品の事業者として、新規で 2 件の農家が登録したもの。

番号 14 当初民間と連携して宅地開発を行う計画があった。しかし、熊本地震の復旧・復興で住宅着工件数が大幅に増加し、民間と連携した事業は実施できていない状況。

民間からの協力依頼について、都市整備課へ事業の提案がきているので、宇城市として政策方針が合致したものは精査し事業を進めていきたい。

(会長)

市が、金融機関としてどのように参画すると良いか示すとよい。

宇城市は、宅地が比較的少なく、まだ開発の余地があるので、積極的に連携を図ってほしい。

(会長)

続いて、宇城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定方針について、事務局からの説明をお願いします。

事前配布資料の宇城市まち・ひと・しごと創生【人口ビジョン】【第2期総合戦略】策定方針（案）について、事務局より説明

(事務局)

2019.10.1時点での本市の推計人口は57,774人で、社人研が公表している2020時点での推計人口57,357人、本市が人口ビジョンで策定した推計人口57,074人をやや上回って推移している。

推計人口については、年400人～500人程度減少しているので、来年時点では、社人研が公表している数値の近似値になるのではないかと予想している。

過去5年間の人口の推移のグラフでは、H28に発生した熊本地震の影響により平均を上回る転出超過となっていたが、創造的復旧復興によりH30年度は転入超過となっている。

一時的に市外へ避難した人の自宅再建により転入超過になったものと推測している。

合計特殊出生率については、H24の1.62をもとに年0.07の上昇を目標としていたが、現在の特殊出生率は国の発表を待っている。

出生者数は横ばいが続いている。

第1期総合戦略の効果検証を踏まえ、第2期総合戦略の策定に向けて重点的に検討が必要な視点、『まち・ひと・しごと創生基本方針2019を踏まえた新たな視点』7項目を加える予定である。

第2期総合戦略の位置づけについて、令和元年12月策定の国の「第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案し、第2次宇城市総合計画及び個別計画を勘案するとともに、実施段階においては近隣市町村との連携強化を図る。

人口ビジョンについては、平成 27 年の国勢調査による新推計を用いて、必要に応じて改定を行う。

次期総合戦略の対象期間は、2020 年度から 2024 年度までの 5 か年とする。

(会長) ここで、委員の皆様の意見を伺いたい。

(委員)

2019. 10. 1 現在の推計人口は 57, 774 人とあるが、11 月の広報紙には人口 58, 980 人と掲載されていた。1 か月間で 1, 200 人近く差があるのはなぜか把握しているか。

(事務局)

広報紙に掲載している人口・世帯数については宇城市に住民登録がある人の数である。推計人口は、平成 27 年の国勢調査の確定値を基礎とし、毎月の出生・死亡・転入・転出者数を勘案して算出したもので、人口の現在値とは異なる。

(委員)

資料より、出生率が横ばいになっているが、第 1 子か第 2 子以降か内訳を把握しているか。より具体的な少子化対策を行うためには、出生数の内訳や出産年齢・結婚年齢の推移等についても把握・分析を行ったほうが良いのではないか。

また、子育て世代への施策について、今後どのように計画に盛り込み充実させていく予定か。

(事務局)

出生数については、第 1 子・第 2 子以降の内訳は把握しておらず、その年生まれた子の数を記載している。第 1 子・2 子を分けてデータを抽出できるか担当課（市民課）に確認する。

子育て支援策として、今後も第 3 子以降の保育料無償や保育園の副食費無償を継続していく。さらに、今年度は中学生に 1 人 1 台タブレットを配布する予定。来年度以降はさらに対象年齢を下げ配布するなど、子供たちの教育に対する財政投資を行っているので、次期戦略に記載するとともに宇城市の魅力発信事業を引き続き行い、移住・定住者の増加につなげていきたいと考えている。

(会長)

最後にその他について、事務局からお願いします。

(事務局)

計画の素案が完成したら委員の皆様へ発送するので、意見をいただきたい。
素案の発送は早ければ1月下旬予定。次回の会議は2月下旬予定。3月パブリックコメント→宇城市議会での報告→第4回会議での報告→計画策定→3月下旬公表予定。

以上をもって、第2回宇城市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了する。